

コード	402030501
記入日	H21.6.8

課コード	115
課名	農林課
課長名	田本耕一
担当者	水本清敏

## 事務事業途中評価表

作成年度	平成 21 年度
------	----------

評価対象事業名称	イノシシ・シカ捕獲報奨金
----------	--------------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 20 年度 ~ 平成 20 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	4	政策名称	自立する産業の育成、雇用の確保	款コード	6
施策コード	402	施策名称	農林業の振興	項コード	1
基本事業コード	40203	基本事業名称	農業生産性の向上	目コード	3
事務事業コード	4020305	事務事業名称	有害鳥獣被害防止対策事業費	細目コード	883
関連計画	法令・条例規則等				

**計画 (PLAN)** ※単年度繰返事業については、全体欄を\*\*\*\*\*とする。

対象: 誰、何を対象にしているのか		対象指標: 対象の大きさを表す指標				
(対象1)	狩猟免許取得者	(対象指標1)	57人			
(対象2)		(対象指標2)				
事業の概要: 具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標: 事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段: 全体、下段: 評価年度)				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****	上五島猟友会への説明: 年1回 補助金交付件数: 273件	*** 説明会	*** 1回	*** 100%	実績1回/説明会計画 1回	***** 平成20年度
		① (達成率分析)	捕獲報奨金制度の説明を交付対象者の猟友会へ行った。主旨については理解されていることから、目的は達成されている。			
		*** 報奨金交付件数	*** 273件	*** 100%	報奨金交付件数/補助金申請件数	20
② (達成率分析)	補助金申請の内容を確認し、273件すべてに交付した。					
目的: 何をしたいのか		成果指標: 目的の達成度を表す指標・達成率 (上段: 全体、下段: 評価年度)				
有害鳥獣から農作物の被害をなくすため、捕獲した者に報奨金を交付し、有害鳥獣の頭数削減を図る。		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
		*** 捕獲頭数	*** 2,413	*** 201%	捕獲実績2,413頭/計画頭数1,200頭	***** 平成20年度
		① (達成率分析)	捕獲目標1,200頭に対して、実績が2,413頭であり、目標は達成できた。			
② (達成率分析)						

**実施 (DO)** ※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		平成19年度以前	平成20年度		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	
活動指標	① 回	3	3	2	1	1					
	② 件	704	704	431	273	273					
成果指標	① 頭	3,517	4,896	2,317	1,200	2,413					
	②										
総事業費 C (A+B)	千円	29,801	29,801	17,095	12,706	12,706					
直接事業費 A	千円	27,701	27,701	15,695	12,006	12,006					
人件費 B	千円	2,100	2,100	1,400	700	700					
内訳	従事職員数	人	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円	7,977	7,977	4,045	3,932	3,932				
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	21,824	21,824	13,050	8,774	8,774					

コード 402030501

**評価(CHECK)** ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありますか。	● ある ● ない	理由	有害鳥獣による農作物被害は深刻であり、報奨金制度により駆除の助成は必要である。
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	● ある ● ない	理由	農作物の被害を少なくするために必要である。
	事業の対象・目的は適切ですか。	● 適切 ● 不適切	理由	適切である。
有効性	現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	● いる ● いない	理由	被害額が減少の方向に向かっているため、成果はもたらしている。
	成果を向上させる余地はありますか。	● ある ● ない	理由	現制度にて十分である。
	事業を行わない場合の影響はありますか。	● ある ● ない	理由	有害鳥獣の繁殖防止策がなく、被害は甚大になる恐れがある。
	類似事業との整理統合はできませんか。	● できる ● できない	理由	類似事業がない。
効率性	直接事業費を削減することはできませんか。	● できる ● できない	理由	捕獲実績により報奨金を支出するため。
	人件費を削減することはできませんか。	● できる ● できない	理由	現在の人件費を削減することは事業推進上できない。
	受益者負担は適正ですか。	● はい ● いいえ	理由	受益者が不特定多数のため受益者負担の割合を判断できない。

**改善(ACTION)**

改善策	1次評価	妥当性	現在のところ、計画を見直す必要はない。
		有効性	現在のところ、計画を見直す必要はない。
		効率性	現在のところ、計画を見直す必要はない。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり
		有効性	捕獲頭数も増加しており成果が確認できる。猪肉加工との相乗効果を期すこと。
		効率性	補助金の支出については、内容を十分審査し適正な執行を行うこと。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次	
	●	●		このまま事業を継続
				事業内容を見直して事業を継続
				事業費を見直して事業を継続
	1次	2次	3次	
				類似事業と整理統合
				事業の休止
				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。